

第7回（令和4年度第4回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和4年12月16日（金）午前10時～11時40分

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員11名

榎本成子委員、大谷久知委員、木内直美委員、佐野洋委員、島田文江委員、
田頭隆徳委員、立石朝美委員、中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、
藤原美江委員

※岩久保早苗委員、内藤大輔委員、松木博子委員、福田豊委員欠席

(2) 職員6名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、
武居生涯学習係長、竹川事務職員、山本事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第6回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第5ブロック研修会資料（抜粋）

ウ 資料3 第53回関東甲信越静社会教育研究大会 山梨大会
開催要項（抜粋）

エ 資料4 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
交流大会・社会教育委員研修会資料（抜粋）

オ 資料5 第10期府中市生涯学習審議会答申（案）

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが
了承された。

(3) 府中市民生委員推薦会委員の推薦について

府中市民生委員推薦会委員の推薦について、事務局より田頭委員を推薦する旨
の報告があり了承された。

(4) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会

第5ブロック研修会について

令和4年11月6日（日）に武蔵野市で開催された令和4年度東京都市町村社

会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について、事務局からの説明後会長より報告があった。

- (5) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会 山梨大会について
令和4年11月10日（木）から11日（金）にかけて山梨県甲府市で開催された第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について、事務局からの説明後、会長及び委員から報告があった
- (6) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
交流大会・社会教育委員研修会について
令和4年12月10日（土）に昭島市で開催された令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について、事務局からの説明後、会長から報告があった。

5 審議事項

- (1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

会長： 今期の1年目は、関東甲信越静社会教育委員研究大会東京大会があり、そちらの準備等でなかなか時間が取れなかった。その後、審議を進めていく中で、最初は府中市生涯学習サポーターについて考えてきたが、途中からは府中市生涯学習センターの指定管理者が選定の時期という事や、事務局と正副会長の考えもあり、府中市生涯学習センターについても話した方がいいだろうということで、皆さんと審議をしてきたところである。その中で出された意見を基に、事務局と正副会長でまとめたものが、配布している資料5である。次回が今期の最終回であるため議論はできれば持ち越したくない。そのため、今回の審議会でも、できる限り完成の状態まで持っていきたいと考えている。資料5について項目ごとに読んでいくので、それぞれについて意見をいただきたいと思う。

《資料5 「はじめに」読み上げ》

この項目は、あくまで、審議の経緯を説明したものである。何かご意見があればご発言いただきたい。

特に無いようなので、次の項目に進ませていただく。

《資料5 「1. 地域の課題解決につながる人材活用に向けて」読み上げ》

この項目でご意見をいただきたいと思う。読み上げていて1点気になったのだが、府中市は自治会と町内会が両方あるのか。どちらかしかない場合は統一しないといけない。

委員：自治会と町内会の違いがわからない。私の地域では町内会だが、自治会は何を指すのか。

会長：基本的にどちらも近隣の住民組織である。地域によって呼び方が違うものである。もし府中市で全て町内会と統一しているのであれば、自治会と表記する必要はないのだが、皆さんのお住いの地域では、どちらで呼んでいるのかお聞きしたい。

どちらの呼び方もあるようなので、どちらが主かという事も含めて、事務局で整理していただきたいと思う。

もう1点お伝えすることとしては、注釈がついている「コミュニティスキル」は前期から唱えられており、必要であるため今回も取り入れているが、「ソーシャルワーク」については、今回新たに追加したものである。意味としては、下に注釈があるため、それぞれでご確認いただきたい。ここに書いたからと言って必ずやらなくてはならないという事ではないが、このようなことを取り入れた講座等をするのが良いのではないかと提案である。ただ、ソーシャルワークというのは、専門性を持った言葉で「ソーシャルワーカー」という方たちがいる。それは本当に専門性の高い方たちであるため、一般市民向けの講座で「ソーシャルワーカー」というのは難しい。ただ、この「ソーシャルワーク」という考え方は一人一人が身に付けても良いのではないかと考えている。地域の課題をみんなで解決するために必要な考え方、知識、技術と考えているので入れさせていただいた。

委員：下の所で住民グループと書いているが、これは市民グループとしていないのは何か理由があるのか。それから府中市は自治会、町内会以外で地縁団体はないのか。追加しておくとなんか団体が入ってきやすいのではと感じた。

会長：自治会、町内会という言葉の扱いは別として、地縁団体という言葉も入れたほうがいいかもしれない。住民グループという表現にしたのは、市民という言葉に特別な思い入れがある方もいるかもしれ

ないと思い、住民グループとした方が受け入れられやすいと感じたからである。

委員： 施設の中には、市民活動センタープラッツや男女共同参画センターフューチャーなどがあるが、それは入れないのか。

会長： この話の流れとしては、より身近な地域を拠点とする必要があるという事から文化センターにしている。今の2つの施設はより様々な他の市民活動、住民活動をしているような団体を支えているような組織であり、そうすると社会福祉協議会等も入ってくることになる。そのため、そこまで広げる必要はないのではないかと思います。自己規制してしまった部分もある。入れたほうが良いか否かご意見いただきたい。ただ、入れるとしてもこの部分の後半は地域に根ざしてという言い方をしているので、そこには入れることはできない。

委員： 全体的な流れが府中市生涯学習センターへの提言でまとまっているため、他の組織を入れなくてもいいのではないかと。

会長： 確かに府中市生涯学習センターを中心としたものであるため、その点でいくとそうかもしれない。どこかほかの部分で入れるかもしれないがここには入れないことにしたいと思う。

他にご意見が無いようであれば次に進みたいと思う。

《資料5 2.地域の「学びのコミュニティ」形成につながる人材活用に向けて 読み上げ》

会長： この項目についてご意見があればご発言をお願いしたい。

委員： そこまで突っ込むとまとまりがつかなくなると思うので、ちょっと気になる程度で入れたほうが良いというわけではないが、先ほど出した市民活動センタープラッツについて、この項目で関係が出てきそうな気がしている。市民活動センタープラッツの活動内容をよく知らないが、切り口が違うだけで中身が重複しているところがあるのではないかと。補完関係として市民活動センタープラッツを利用することやその逆も考えられると思う。前にも発言したが、府中市生涯学習センターの講座を受けていて、年間を通してではないので、その空いているときに市民活動センタープラッツで行ったりするという関係も良いのではないかと。今我々は場所だけの話をしているが、

府中市生涯学習センターの機能をどうすべきか、という事になると曜日や時間帯によっては片方の講座をもう片方の場所で開くとか、そういうことも考えられるのではないか。

会長： 市の位置づけとして私が理解しているのは、市民活動センタープラッツは市民活動の支援の場でそのためのスペースを貸し出している。府中市生涯学習センターは学習を中心に行っているという違いや所管している課の違いがある。ただ、利用する側から見れば、活動する場としては、同じである。府中市生涯学習センターは行きづらいという事もあるため、市民活動センタープラッツをうまく使うという事もお互いを補完するものとしては良いかと思うが、この提言のどこに入れるかという話になる。

委員： その点について、一番の問題は府中市生涯学習センターが市民活動センタープラッツに比べて今風に進化していない事であると思う。おそらく、ここの文章の提言も府中市生涯学習センターへの提言という構造があるので、その中で、市民活動センタープラッツや男女共同参画センターフチュールと比較することや、ふれあい会館の事業と比較することはあまり必要が無いのではないか。むしろ府中市生涯学習センターに変わってほしいと思っていることの方が強いので、府中市生涯学習センターに出来ない部分を市民活動センタープラッツにやってもらうというのは府中市生涯学習センターにとってもあまりいい話ではない。そこの部分の提案をしながら、文化センターや府中市生涯学習センターを有機的に繋げながらなんとかしていき、その核になるところが地域の課題を持っているという事だから、市民活動センタープラッツや男女共同参画センターフチュールが関わっていくのは少し違うのかなという気がしている。

会長： 課題解決という点においては、市民活動センタープラッツや男女共同参画センターフチュールも同じようなものを持っていると思うが、今回は府中市生涯学習センターに求められる機能ということであるため、そこをより充実してほしいという内容のほうが適しているかもしれない。読んでいて気になった点としては、真ん中より少し下の部分で「の」が多いところがあるため、ここは少し手を加えさせていただくかもしれない。他に何か意見があればお願いしたい。

会長： 最近、市民活動センタープラッツで府中市シルバー人材センター

の方が手伝いをしていたり、男女共同参画センターフューチャーに市民活動センタープラッツが出向して行っている講座が増えてきている。そのため、会場の不便さという点を考えたときには、市民活動センタープラッツの会場を借りて、府中生涯学習センターが講座を行うこともありではないかと考えている。生涯学習という事であるため、どちらかという学ぶという色が濃い市民活動センタープラッツはどちらかというグループ化したりと若い人たち向けで視点が違うような気がする。生涯学習という文化的な香りの濃い生涯学習センターの役割というのを貫きながら、場所的な問題を改善するためにお互いで場所を提供し合うのは良いのではないと思う。

会長： その点は、今の項目でも入れることはできるかもしれないが、この項目では、「学びのコミュニティ」の形成のことについて書いているため、もしかしたらそれは次の項目で入れることができるかもしれない。次の項目では、府中市生涯学習センターとしての場所の充実ももちろん必要だが、機能面の充実の必要さにも触れている。この流れで次の項目に進みたいと思う。

《資料5 3. 学びと活動の場である府中市生涯学習センターのさらなる充実に向けて 読み上げ》

委員： 照明についての記述があったが、今の状態は適度ではないかと思う。個人的には、むしろ公共施設であれば、教室以外は消灯しても良いのではないかと考えている。館内の照明が暗いと言ってしまうと今の時世に逆行しているような答申になるので、この点は削除してもいいのではないか。飲食店などは明るくていいと思うが、府中市生涯学習センターは中身や目的があって訪れるものだから照明の記述は少し違うと考える。

委員： 照明ではなく、雰囲気のことではないか。また、照明については、府中市生涯学習センターに入るとアトリウムがありそこに団体のお知らせなどが貼られているがそれが良く読めないくらい暗いというのが現状である。

会長： 雰囲気明るくするというのは合っていると思う。

委員： アメリカ式のホテルやレストランは明るくなっているが欧州式はすごく暗く作られており、日本人的には入りづらく感じることもある。そういった意味では、好みの問題かもしれない。

会長： 照度の明るさというよりは雰囲気の部分の事を表現したほうがいいのかも。

委員： 生涯学習センターは建物自体がとても豪華に作られている。冷暖房も教室さえ機能していればいいため、ロビーは吹きさらしでもいいのではないかと考えている。雰囲気だけのためにコストをかけるのは無駄ではないかと思う。

委員： テレビ業界などでも、省エネで館内を暗くしていると言っているため、納得していれば暗くても良いと思う。たまたま、仕事の関係で地方に行っていたが、公共施設で変わったと感じた点としては、昔は広いロビーがあったところに市民がどういう活動をしているかを見せるという形になっており、楽しい雰囲気だった。そういった入り口のありかた、見せ方、置き方を工夫していけば、お知らせが見づらいというのも解決できるのではないか。また、体育関係と学習関係で評価が分かれている点も気になっている。

委員： もう1点気になったところとしては、「利用の厳しさを指摘する声がある」とあるが、例えばスポーツでいうと非常に必要なことである。そのため、この表現によって、その部分が緩くなってしまうと困る人もいるのではないか。また、コロナ対策においても、あまり厳しさを感じない、むしろ少し緩いと感じている。単にここに厳しさの事について、書いてしまうと読み手に誤解を生んでしまうかもしれないため、書くのであればこの点についてという具体例を入れて限定したほうが良いのではないかと思う。

会長： この記述は学習室、宿泊のどちらについてだったか

委員： どちらも話には出ていたと思う。これは提言であるため、その細かい例示をまとめる必要があり、具体例を並べるわけにはいかず、この表現になっているのではないだろうか。例えばそれは学習室の使用についてだったり、施設利用は団体でなければいけないことや、用はないけど近隣の人たちと集まって軽い交流ができる場所無いといった様々な話が今までの経過の中で出てきていた。そういったことをどれか一つをとってルールが厳しいわけではなく、施設の

使用に関してのルールという事においては、今までいろいろな使い勝手の悪さが述べられていたと記憶している。それをまとめていくと、こういった表現が出てくるのではないかと思う。

会長： 今の発言の中の「使い勝手の悪さ」という表現をそのまま持つてくるのはどうか。

委員： 利用者側の使い勝手の悪さという事である。あれこれをやってはいけないというルールの問題と使い勝手の中でも、これはできないというところがあると思う。

会長： 利用に関しての厳しさではなく、使い勝手の悪さを指摘する声として、その後のところを、「ロビーの雰囲気少し暗く」という表現にするのはどうか。

委員： ロビーに執着する必要は無いと考える。多少暗くても、あれだけ天井高くても、利用するアイデアがあるはずで、今はそれが無いだけである。あの暗さでも、楽しく利用する手段はあるのではないか。

委員： ロビーコンサートなどが利用方法としてあるが出来ても月に1回程度であるため少ない。

委員： 入館をためらうの前に、何か漠然としながらも的確な言葉を審議会委員で考えたほうがいいのではないか。

副会長： 活動状況が分かりにくいというのがあるのではないか。実際に見えづらいというのもあるし、雰囲氣的にも見えづらいというのがあるのかもしれない。

会長： この前提にあるのは、もともと何か講座などの目的があってくる人達にはロビーがどうあっても来てくれると思うが、周辺に来ていてふらっと寄ってみようかという人は来ないだろうというものである。

委員： 外から見るとかっこいい施設である。ここは何だろうとなると思う。

会長： ただ、中に入ろうとすると中が暗くて入っていいのかと不安になってしまう。

委員： 常に使っていない人がたまに入っていくと暗いなと感じると思う。最近はどここの施設も照明を落としている。府中市生涯学習センターのホールに入った時に、そのような構造でしようがないのとも思うが、受付が奥まっけて話しぶり印象を受けたこともあった。常時使っている方だったらこれくらいの暗さは大丈夫だと思うが、そうでない人には、あまり親切ではないかもしれない。

会長： そうすると、「初めての方が入りづらい」という表現がどうだろうか。

委員： 業種によってロビーや入口の位置づけが変わると思う。レストランやラーメン屋のような商業施設は暗いと営業していないのではないかと感じてしまうが、文化施設でふらっと来る人を対象のためにお金をかけるのは少し違うのではないか。府中市生涯学習センターを利用する人のきっかけでふらっと来た人というのはいるのか。大体は市の広報やホームページを見て行くのではないか。集客をするためにロビーを使って職員の時間を使うのはマイナスだと思う。

委員： 目的のためだけに行く施設としては、あそこは大きすぎると思う。たとえば、食堂のところが、誰もが知っているファミリーレストランだったら近隣の人や、美術館に行った人が食事やお茶をしに訪れる。その人たちの会話でここが府中市生涯学習センターでプールもあるという話になったときになんらかの導線のイメージも変わってくるかもしれない。明るければ人が来るというものでなく、考え方を切り替えてそういった提言をしてもいいのではないか。

会長： この趣旨としては、照明の問題ではなく、行きにくいというのは単なる立地の問題だけではなく、そこまで来たけれど何か入りづらいというのはあると思う。目的があって来る人たちはあまり気にならないかもしれないが、これからの生涯学習の中で学びのコミュニティを形成していこうというのがあるため、学べることがあるかなと考えていて近くに来た時に寄ってみようかという人や、体育施設を利用しに来た人たちが学習についても見てみようといった、今までになかった利用者を増やしていくことは必要であると思う。

委員： 美術館は長年レストランが悩みの種だったが業者が入れ替わると美術館でやっている展示の内容とコラボレーションして提供していた。今の府中市生涯学習センターのレストランはあまり講座の前後に行きたいとは思わない。今の話に出ていた府中市生涯学習センターの運営方針に合うファミリーレストランなどが入れれば、エントランスや受付の雰囲気も明るくなっていくのではないかと思う。

委員： こういったことを考えるために委員会のようなものを作らないと永遠と決まらないように思う。市民朝市のようなものを郷土の森などと連携して横の繋がりを持って行えると良いのではないか。また、福祉園の手伝いをしており、そこでアートをテーマに作品制作をしてもらったりしている。それを展示したり販売したりする場所が無い。そういったことができるようなより開けた空間にしておくことが求められるのではないか。

会長： その点、後ろの方にも少し記述があるため、文章についての提案だが、「使い勝手を指摘する声があります。」として、文章を一度

切る。そして、「館内の照明が少し暗く、入館をためらうといった声もあります。」を削除して、「学びのコミュニティの形成につなげるために」の後に、「多様な人々がより気軽に利用できるよう」という文言を追加するのはどうだろうか。ご意見なければこれで行きたいと思う。ここで、来年度以降の府中市生涯学習センターの指定管理者について、事務局からお話いただきたい。

事務局： 来年度からの府中市生涯学習センターの指定管理者選定について、一昨日の市議会定例会及び、昨日の教育委員会定例会で承認されたため、報告させていただく。これまで2期10年にわたって今の事業者が行っていたが、来年4月から新しい事業者に変わる。名称がミズノ・KPBグループとなっている。

会長： ここでこのような形で答申を出すことで、新しい指定管理者には是非とも実現してほしい。また、それは府中市生涯学習審議会としても、しっかりサポートしていくという事で、そういった形でもいかしていきたいと考えている。それでは次の項目に進みたい。

《資料5 1. 学びのニーズに対応したサポーターとなる人材を育成するために
2. 生涯学習サポーター制度をより多くの市民が使えるようにするために
読み上げ》

ここは前半の審議内容を取り入れたものである。1は人材育成について、2は使いやすくすることでその中にDXについても入れたものである。この点について、ご意見があればお願いしたい。

委員： 最後の2行が少しわかりづらく感じた。表現が重複しているのではないか。分かったような分からないような気がする。

会長： たしかに、少し横文字が多いようにも感じる。

副会長： DXは注釈にもある通りデジタルトランスフォーメーションの事である。これは概念としてはより広いものである。そして、デジタルコミュニケーションはそれよりも範囲の狭い考え方である。そのため、デジタルコミュニケーションの方の表現を少し工夫すればいいのではないかと思う。

会長： その点の表現は事務局と調整をしたいと思う。

委員： デジタルコミュニケーションとは、どういったものか教えていただきたい。

副会長： 基本的には遠隔の通信の事で、その内容は話すことであったり、動画であったり静止画であったりもする。我々は今近接してコミュニケーションをとっているが、それを遠隔でまかなえるという事である。対象としては様々なものがある。

委員： 文章を逆にした方がいいのではないか。DXを最後にもっていくべきである。DXの範囲は限りなく広いので、「デジタルコミュニ

ケーション」などといった表現であれば意味はわかる。ビジネスの観点から言えばいろいろなことがあるが、生涯学習において、デジタルコミュニケーション以外でDXに関係するものに何があるか分からない。

会長： 違う角度からお話すると、受付などその施設に行かないとできないことがスマートフォンで出来るようになるというのもDX化である。ただ、この主題はデジタルコミュニケーションの方が大事であるため、DXという言葉を使わなくてもいいかもしれない。

委員： DXがないとデジタルコミュニケーションも実現はしないのではないか。

委員： 例えば仮想空間を使って、様々な講座に参加するというような可能性を入れたいため、個人的にはDXという言葉は入れていただきたい。

会長： そうしたら、順序を逆にして、DX化を積極的に進めるという内容にしたいと思う。

委員： デジタルコミュニケーションに注釈を入れていただきたい。また、これまで、サポーターと一緒にファシリテーターも話に出ていたように感じるが、それは入れないのか。2の「市民同士をつないで」のところに入れることができるのではないか。

会長： 機能を府中市生涯学習センターが持つことも必要と書いているため、追加することはできるかもしれない。

委員： 府中市生涯学習ファシリテーターの人たちが講座受講後にどのような活動をしているかがわからない。また、府中市生涯学習サポーターとの関連性も良くわからない。府中市生涯学習サポーターを利用したくてもそのやり方が分からなかったりするため、広報等での周知をしていただきたい。

会長： 今回はファシリテーターについて、議論をしてこなかったため、ここに入れるのは難しい。

委員： 府中市のファシリテーターは自分が何かをする人という定義付けであるため、少し特殊である。そのため、一般的なファシリテーターという感じではないが、課題解決に向けたときにはファシリテーターは必要である。そういう意味でのファシリテーターを派遣しましょうかとなった時に府中市の定義ではファシリテーターって何をする人？という事になってしまう。

会長： やはり、今期はファシリテーターについての議論を行ってこなかったため、入れるのは難しい。おそらく新しい指定管理者に対する仕様書にもファシリテーターに関することが書かれているため、無くなっていく事は無いと思う。それでは最後の項目に移っていきたい。

《資料5 おわりに 読み上げ》

何かこの点について、ご意見がある方はご発言いただきたい。このように書いてあるので、府中市生涯学習センターを拠点として、様々な点において、市民と協働して進めていきたいと思う。

委員： 場の提供とあるが、DX化を考えたときに、物理的な場以外にも電波的なものなど目に見えないもののニュアンスも入れたほうがいいのではないか。

会長： 「そのために必要な場や機会の提供」として、機会には目に見えないものも含まれると思うので、この様な表現にさせていただければと思う。他に何かご意見等が無ければ、今回はここで終了とさせていただきます。

6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和4年2月3日(金)の午前10時から府中駅北第2庁舎3階会議室にて開催することで、了承を得た。